

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730301

研究課題名(和文) 萌芽期熱帯産品輸出経済の研究：18世紀の南・東南アジアとオランダ東インド会社

研究課題名(英文) A Study of the Economy to Export Tropical Products at the Initial Stage: South and Southeast Asia in the Eighteenth Century and the Dutch East India Company

研究代表者

島田 竜登 (SHIMADA, RYUTO)

東京大学・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：80435106

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18世紀における南アジアならびに東南アジアでの熱帯産品輸出経済の萌芽・形成を分析するものである。具体的には、ジャワ、ベンガル、コロマンデル、グジャラートにおける砂糖、綿織物などの生産、集荷や輸出といった実態を、オランダ東インド会社文書を利用することで考察した。以上の研究により、東アジアとは異なった発展経路をもつ南・東南アジア経済を歴史的に解明し、もって、近代アジア・世界経済における国際分業体制下に、ローカルな熱帯産品輸出経済がいかに形成されたかを明らかにすることで実証的なグローバル・ヒストリーの議論の下地ともなりうる研究を目指したところである。

研究成果の概要(英文)：This research project aimed to examine the economy of South and Southeast Asia to export tropical products at the initial stage. Production, collection and export of products such as sugar and cotton textiles in Java, Bengal, Coromandel and Gujarat were investigated through consulting the records of the Dutch East India Company. This research project sought for an economic development path in South and Southeast Asia, which was different from that in East Asia. Then, by making clear the process of emergence of the economy to export tropical products within the framework of the international division of labour in the Asian and World economy during the eighteenth century, and the research attempted to provide basis information for current debates of global history.

研究分野：アジア経済史

キーワード：東南アジア 南アジア オランダ東インド会社 国際分業 アジア域内貿易 世界貿易

### 1. 研究開始当初の背景

19世紀中葉以降に関する近代アジア域内貿易史をめぐる研究動向を踏まえ、本研究代表者は、その歴史的起源や規定性を検討し、明らかにする研究をこれまで行ってきた。オランダ東インド会社文書を利用して、18世紀を中心とした近世期のヨーロッパ＝アジア間貿易やアジア域内貿易(アジア間貿易)の研究を行い、ヨーロッパ市場ばかりかアジア域内市場の需要の高まりによって、南・東南アジアにおける熱帯産品の生産が刺激され、19世紀以降の本格的植民地化時代におけるモノカルチャー経済の萌芽が18世紀にみられたと貿易の側面から解明してきたのである。また、このような実証研究は、近年盛んなグローバル・ヒストリー研究に対して、近世アジアの実証分析からそのディベートにも大いに貢献できるであろうと考えられることも付記しておく。

### 2. 研究の目的

しかし、本研究代表者のこれまでの近世アジア域内貿易史をベースにした研究のままでは、広範なアジア経済の多様性を理解するには必然的に限度がある。国際貿易は輸出入それぞれのモノの動きであり、かつ各港市の後背地経済の生産性の比較優位の多様性によって生じるものである。したがって、当該期のアジア経済を包括的に検討するには、各生産地での経済変化を分析する必要があると自覚し、近世熱帯アジアの生産に関する本研究を、今回、立ち上げるに至った。

そもそも熱帯アジアにおける輸出向け生産の開発史は、欧米資本による鉱山・プランテーション栽培と小農中心の輸出作物栽培に大方分類されてきた。いずれも、植民地的経済を形作る根幹とされて理解されてきたが、実際はそのような安易な見取り図では現実の把握はできない。今一度、新たな実証研究を生産面も視野に入れて行う必要がある。

### 3. 研究の方法

南・東南アジアのうち、経済的に主要な4地域(ジャワ、ベンガル、コロマンデル、グジャラート)を選び、それぞれの熱帯産品輸出経済の萌芽・形成に関して生産から輸出に至る過程を分析する。オランダ東インド会社の作成した記録であるオランダ東インド会社文書に含まれる年次報告書や会計帳簿、地図など多様な史料を駆使する。本史料の所蔵機関であるオランダ国立公文書館ならびにインドネシア国立公文書館等で史料を収集し、各地のデータを分析したうえで、最終的には熱帯産品輸出経済のパターンや発展経路を明らかにする。

具体的には次の5つの研究ステップをとった。オランダ東インド会社による輸出貿易の数量的把握、輸出概況についての分析(文字史料からの分析)、生産概況と時空間分析、労働管理、技術導入ならびに集荷

等を担った現地仲介商人の分析、総括的分析(一般化)である。

### 4. 研究成果

研究プロセスとして、まず仮説をつくり、それを歴史の実態解明のもとで検証を行う形で進めた成果は以下の3点にまとめることができよう。第一に、19世紀中葉以降に関するアジア域内貿易史研究が明らかにしてきたように、輸出商品も欧米の宗主国のほか、アジア域内市場の需要も重要であったことは18世紀においても同様であった。第二に、開発を先導した勢力の中心は、欧米資本というよりはむしろアジア人商人であった。ヨーロッパ資本は現地で常に短期的資金不足の傾向にあり、現地人商人との連合なくしては、輸出貿易を担うことができなかった。つまり、ヨーロッパ人商人、より正確に言えば、東インド会社という会社組織とアジア人商人の連携とその制度的保障が存在しない限り、輸出経済の形成は不可能だったのである。第三に、こうしたアジア人商人は、東南アジアにおいては在外中国人商人であったり、南アジアにおいては南アジア現地の商人のほか、南アジア内部の他地域ないしは西アジアからといった外来の商人である例が多い。彼らが資本や技術、情報を提供し、さらには華人労働者や奴隷といった移民労働力の導入や輸出商品の確保や品質管理も担っていたのである。

なお、研究成果として、下記の通り、雑誌発表論文6件、図書(論文集)における刊行論文7件、口頭発表21件を得た。これらには他の科研費の研究分担者として参加したプロジェクトとの共同成果や本研究プロジェクトの副産物的な成果も含まれるが、若手研究(B)としては十分に意義のある多くの成果を生み出したものと考えられる。くわえて、本研究の後継プロジェクトとして、本研究代表者が新たに研究代表者をつとめる基盤研究(B)「近世アジアと砂糖の世界史：砂糖の生産・国際流通・消費文化に関する国際共同研究」(2015年4月より3年間)が採択された。この研究プロジェクトは本研究で明らかになったことを踏まえ、その代表的な商品である砂糖を事例として、より詳細に研究を実施することを目的とする国際共同研究である。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

(1) 島田竜登「17・18世紀におけるアユツァー朝のアジア域内貿易とオランダ東インド会社—『スレイマーンの船』との関連で—」『史朋』47、2014年12月、1-16頁。

(2) 島田竜登「梅棹忠夫『文明の生態史観』とグローバル・ヒストリー—歴史叙述の新たなパラダイムを求めて—」『比較文明』30、

2014年10月、99-113頁。

(3) Ryuto Shimada, “Economic Links with Ayutthaya: Changes in Networks between Japan, China, and Siam in the Early Modern Period”, *Itinerario: International Journal on the History of European Expansion and Global Interaction*, 37(3), December 2013, pp. 92-104.

(4) Ryuto Shimada, “The Long-term Pattern of Maritime Trade in Java from the Late Eighteenth Century to the Mid-Nineteenth Century”, *Southeast Asian Studies*, 2(3), December 2013, pp. 475-497.

(5) 島田竜登「近世植民都市バタヴィアの奴隷に関する覚書」『文化交流研究』26、2013年3月、33-42頁。

(6) 島田竜登「近世海域アジア貿易と日本銀—オランダ東インド会社を中心に—」『史学研究』277、2012年10月、59-73頁。

〔学会発表〕(計21件)

(1) Ryuto Shimada, “Expansion of the Dutch Colonial City: Spatial Analysis of Ethnicity and Land-use of Batavia, 1619-1930”, 6 January 2015, Joint Conference of ANGIS and CRMA, Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre, Silpakorn University, Bangkok, Thailand.

(2) Ryuto Shimada, “Bangka's Tin Production and its Export Trade in the Eighteenth Century from an Asian Perspective”, Workshop: Urban Development and Social Integration: Long Term Perspectives, 24 November 2014, University of Indonesia, Depok, Indonesia.

(3) 島田竜登「近世バタヴィアとアジア船—アジア域内貿易の一側面—」, 2014年度東洋史研究会大会、2014年11月3日、京都大学。

(4) Ryuto Shimada, “Maritime Asia Integrated into the World: A Case Studies of the Japanese Copper Trade by the Dutch East India Company”, Workshop: East Asia and Global History, 22-23 October 2014, Princeton University, USA.

(5) 島田竜登「長崎出島のアジア人『奴隷』とイスラーム」, 比較文明学会第32回大会シンポジウム「文明交流と日本文明」, 2014年10月11日、西南学院大学。

(6) 島田竜登「近世バタヴィアのモール人について」, 第269回北海道大学東洋史談話会・シンポジウム「人の移動・移住とその記録—陸と海の近世アジア—」, 2014年9月21日、北海道大学。

(7) 島田竜登「長崎出島のアジア人『奴隷』とイスラーム」, 第52回比較文明学会九州支部研究会、2014年7月26日、西南学院大学。

(8) Ryuto Shimada, “Chinese Junk Trade between Japan and Southeast Asia in the Early Modern Period”, Seminar on East Asian Maritime History: Asian International Trade Order and Chinese Merchants, 25 December 2013, Research School for Southeast Asian Studies, Xiamen University, China.

(9) 島田竜登「書評：金澤周作編著『海のイ

ギリス史：闘争と共生の世界史』(昭和堂、2013年7月刊行)」, 大阪経済大学日本経済史研究所第73回経済史研究会、2013年11月30日、大阪経済大学。

(10) Ryuto Shimada, “Global Trade in Ayutthaya during the Early Modern Period” Symposium: Muslim in Thai History, 23 November 2013, Tonson Mosque, Bangkok, Thailand.

(11) Ryuto Shimada, “Batavia: A Centre for Indonesian, Asian and Global Trade, 1619-1850”, First International Workshop: East-West Connections, Exchanges and Encounters, 16th-19th Centuries, 11 November 2013, University of Macau, Macau.

(12) 島田竜登「17世紀末アユッタヤー朝の国際貿易—イラン使節来朝の経済的背景—」, 第264回北海道大学東洋史談話会、2013年10月18日、北海道大学。

(13) Ryuto Shimada, “Batavia as World Trade Centre?: A Key Trading Port in Indonesian, Asian and Global Perspectives, 1619-1799”, International Conference: Maritime East Asia in the 16th-18th Centuries: Sources, Archives, Researches: Present Results and Future Perspectives, 2 October 2013, “Orientale” University of Naples, Italy.

(14) Ryuto Shimada, “Hirado and Beyond: British Trade with Japan in the Seventeenth Century”, International Conference: Japan and Britain, 1613: Parallels and Exchanges, 20 September 2013, The School of Oriental and African Studies, University of London, The United Kingdom.

(15) Ryuto Shimada, “The VOC Trade of Copper from Japan”, Symposium: Boekhouder-generaal Batavia: ontsluiting van de bronnen van het goederenvervoer van de VOC in de achttiende eeuw, 6 September 2013, The Huygens Institute for the History of the Netherlands, The Netherlands.

(16) Ryuto Shimada, “Iranian Settlers in Ayutthaya and the Dutch East India Company”, The Eighth International Convention of Asia Scholars, 24 June 2013, The Venetian Macau Resort Hotel, Macau.

(17) Ryuto Shimada, “Ayutthaya as a Centre of Global Interactions: Diplomacy and International Trade of the Kingdom of Ayutthaya around 1700”, International Workshop: Maritime Perspectives in Eurasian and Indian Ocean World History: Towards a Global History, 18 February 2013, McGill University, Canada.

(18) Ryuto Shimada, “Batavia and its Ommelanden, 1619-1930”, The XVIth World Economic History Congress, 11 July 2012, Stellenbosch University, South Africa.

(19) Ryuto Shimada, “Porcelain Token in Thailand: The Chinese Society and the Thai Global and Local Conditions in the Long Nineteenth Century”, The XVIth World

Economic History Congress, 10 July 2012, Stellenbosch University, South Africa.

(20) 島田竜登「近世ユーラシア海上貿易とオランダ東インド会社」、九州・シルクロード協会 2012 年度第 2 回交流会、2012 年 6 月 30 日、福岡市人権啓発センター。

(21) Ryuto Shimada, “Batavia: Multi-ethnic Society in the Dutch Colonial City in the Early Modern Period”, Second Congress of the Asian Association of World Historians, 28 April 2012, Ewha Womans University, South Korea.

〔図書〕(計 7 件)

(1) Ryuto Shimada, “Import Trade in Precious Metals and the Economy of Japan, 1763-c.1850”, in: Jane Kate Leonard and Ulrich Theobald (eds.) *Money in Asia (1200-1900): Small Currencies in Social and Political Contexts* (Leiden and Boston: Brill Academic Publishers, January 2015) pp. 443-463.

(2) Ryuto Shimada, “Hinterlands and Port Cities in Southeast Asia’s Economic Development in the Eighteenth Century: The Case of Tin Production and its Export Trade”, in: Tsukasa Mizushima, George Bryan Souza and Dennis O. Flynn (eds.) *Hinterlands and Commodities: Place, Space, Time and the Political Economic Development of Asia over the Long Eighteenth Century* (Leiden and Boston: Brill Academic Publishers, January 2015) pp. 197-214.

(3) 島田竜登「『長崎』再考—海域アジアと近世日本—」熊野純彦・佐藤健二編『人文知 3 境界と交流』(東京大学出版会、2014 年 9 月) 109-125 頁。

(4) 島田竜登「グローバル時代の歴史学—グローバル・ヒストリーと未来をみつめる歴史研究—」比較文明学会 30 周年記念出版編集委員会『文明の未来—いま、あらためて比較文明学の視点から—』(東海大学出版部、2014 年 5 月) 148-162 頁。

(5) Leo Lucassen, Osamu Saito, and Ryuto Shimada, “Cross-Cultural Migrations in Japan in a Comparative Perspective, 1600-2000”, in: Jan Lucassen and Leo Lucassen (eds.) *Globalising Migration History: The Eurasian Experience (16th-21st Centuries)* (Leiden and Boston: Brill Academic Publishers, March 2014) pp. 362-412.

(6) 島田竜登「近世ジャワ砂糖生産の世界史的位相」秋田茂編『アジアからみたグローバルヒストリー—「長期の 18 世紀」から「東アジアの経済的再興」へ—』(ミネルヴァ書房、2013 年 11 月) 148-171 頁。

(7) 島田竜登「海域アジアにおける日本銅とオランダ東インド会社」竹田和夫編『歴史のなかの金・銀・銅—鉱山文化の所産—』アジア遊学 166、2013 年 7 月、48-58 頁。

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島田 竜登 (SHIMADA, RYUTO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号：80435106

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし